

I. はじめに

本報告書は、当社および主要グループ会社の技術経営とその要素である「研究開発」および「知的財産(知的財産権、ブランド)」に関する情報を提供することを目的としています。

報告対象期間は2005年度(2005年4月1日から2006年3月31日まで)とし、一部、2006年度からの組織体制、新規施策等についても記載しています。

II. 日立グループの技術経営

1. 目指すべき日立の姿

いつでも、どこでも、誰でもが情報を受け取ったり発信したりできる社会、そして、企業、公共、個人の壁を越えて誰もが繋がり、情報を活用することで、新たな価値の連鎖を享受できる社会、そんな「ユビキタス情報社会」が到来しています。日立グループは、様々な事業領域での実績とITとを融合させ、「ユビキタス情報社会」の価値創造、ひいては豊かな社会の実現に取り組みます。それを実現していくのが「uVALUE(ユーバリュー) = 実業×IT」です。

日立グループの事業は、社会基盤や産業基盤、生活基盤といった、人々の生活を支えていく事業の集合体です。情報基盤事業を各基盤事業に掛け合わせることで、シナジーを生み出し、お客様と社会への最適価値「uVALUE」を創造し、「Inspire the Next」を実践していきます。つまり、幅広い事業領域から得られる経験・知識・ノウハウといったものを縦横無尽に掛け合わせることで「真の総合力」を発揮して高い付加価値を創造する事業体を目指してまいります。

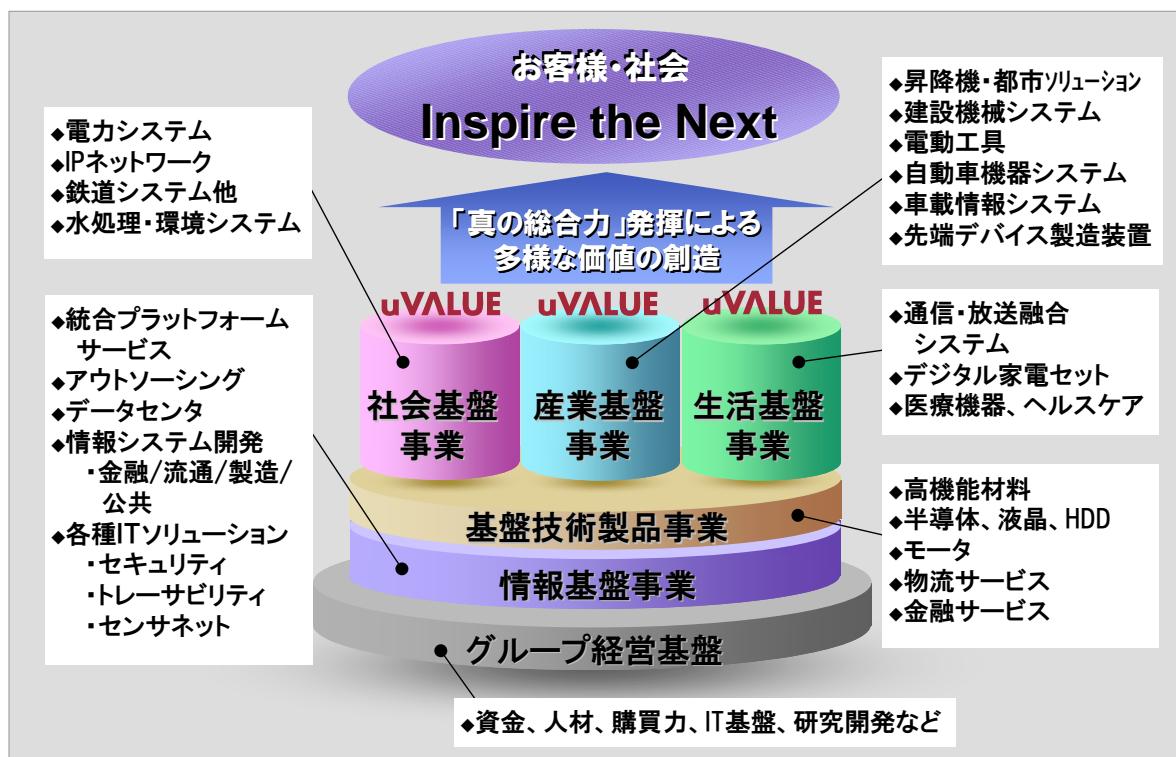


図2.1 「真の総合力」による価値創造

2. 技術経営の考え方

「真の総合力」を発揮し、今後の飛躍に向けて、当グループでは「イノベーション」、「グローバル」、「シナジー」をキーワードに挑戦しています。

2.1 イノベーション

技術進歩は加速度的に早くなってきており、この先、どの技術が本物かという「先を読む力」が必要です。イノベーション技術によって、時代を先取りした新しい製品やシステムを開発し、